



### 3、耕種概要

農家号	品名種	播法種	播種時期	播種量	施肥量				備考
					厩肥	硫酸	過石	塩加	
A	在来種	耕起播	38. 9.23	2 Kg	Kg 4,000	Kg 50	Kg 25	Kg 20	
B	"	"	10.10	2.5	2,000	35	10	10	
C	"	"	9.20	3.0	3,600	—	—	—	追肥として 牛尿のみ
D	"	水田中播	10.29	2.5	500	15	—	5	
E	"	"	10.15	3.0	1,000	45	15	10	
F	"	"	10.10	3.0	600	15	5	5	
G	"	"	10.20	2.5	400	20	15	5	
H	"	"	10.25	3.0	500	15	5	5	

## 調査成績並びに考察

以上の成績をみると、総社地方におけるイタリアンライグラスの収量状況がわかると思うが、栽培法は、水田裏作耕起播と水稲中播の方法で行い、第3表、第4表の通り、耕起播、中播の播種時期が、ほぼ同時期であっても、生育ステージ及び収量においては、耕起播の場合が、はるかに良成績であることがわかる。また施肥量においても、C農家のごとく、無肥料でも（牛尿のみ）16,800kg と驚異的な収量を上げることも不可能でないことがわかると思う。

刈取回数においても、平均刈取回数は、起耕播の場合6回、中播の場合5回と、耕起播の場合が成績が良く、中播の場合の大半は、年内刈取が出来なく不利であった。これら8農家の飼料栽培優位性をみると、第4表の通り、100kg 生産費においても、B、C農家のごとく、栽培方法を耕起播とし、飼料ほが畜舎に近くて便利が良く、厩肥牛尿を主体とした自給施肥の場合が、一時的にもせよ飼料作物生産費をいちじるしく切下げることができる。

以上の成績の通り、総社地方においての水田裏作、イタリアンライグラスの収量は、10 a 当り耕起播の場合16,000kg、中播の場合14,000kg の収量が確実に上がることがわかった。なお本年度は、総社市において「服部販売乾草生産組合」麦作転換による、イタリアンライグラスの共同栽培をはかり、イタリアン乾草の大量生産販売に踏切っていますので広く需要家の御利用をねがいたいと思います。